

## 【熊本 S.J.C.D.例会 抄録】

演題 「長期安定に必要なこと」

演者名 松下哲也

日付 平成 21 年 8 月 25 日

### Key Word

- 1) 炎症のコントロール
- 2) 咬合のコントロール
- 3) 訪問診療

### 抄録

ケース 1 は、20 歳女性で、主訴は歯肉からの出血・腫脹で来院されました。限局型侵襲性歯周炎と診断し、炎症のコントロールを徹底して行ないました。メンテナンス 12 年のケースです。

ケース 2 は、53 歳女性で右下 6 番の自発痛で来院されました。診断は、中程度以上の慢性歯周炎で、咬合支持はアイヒナー B4 でした。それに対して、プラークコントロール・抜歯・エンド・除石・咬合調整・SRP、再評価、歯周外科・インプラント、再評価、補綴治療を行ない 5 年間のメンテナンス期間を経た症例です。多数歯欠損で、咬合支持が失われた時は、炎症のコントロールと咬合のコントロールが難しくなります。

ケース 3 は、67 歳女性で全体的な治療を希望され来院されました。歯周組織にはあまり問題なく、インプラント・補綴治療を終了しましたが、8 年半の空白期間後、再会したケースです。

3 つのケースで長期安定の必要事項を考えます。

諸先生方のご意見、ご指導を宜しくお願いします。